

相沢 育哉 (Aizawa Ikuya)

オックスフォード大学 教育学部 博士課程

「平和」の定義

本小論文では「平和」の定義について考えた。「平和」は消極的平和の考えのように国家間の均衡が保たれ、単に戦争がない状態を意味する「平和」と、積極的平和の考えに基づく人々の人権が守られている場合の「平和」の2種類に分類される。

現代社会では前者ではなく、後者の意味での「平和」が重視されるべきである。

1つ目の理由として、1990年代からNPOやNGOの必要性を人々が認識し始め、政府や企業が補うことのできない社会問題を解決する担い手として活躍し始めたことが挙げられる。現代社会に生きる私たちが求めている「平和」の条件を満たすためには行政、企業のみが作り出す「平和」では不十分である。それぞれのセクター(私たちひとりひとり)が協働することによって、自らの担いきれない部分をお互いに補うことが可能になり、人々の求めている後者の意味での積極的「平和」の実現が達成することができる。

2つ目の理由として、人権の保護を求める風潮が以前にも増して強くなってきていることが挙げられる。戦時体制下では、出版法、新聞紙法などをよりどころにした言論統制が行われ、メディアが国民に対して自由に情報提供をすることが厳しく取り締まられていた。しかし、民主主義の時代を迎え言論の自由が認められた現代社会では、メディアが自由に報道する権利を確保し、視聴者が保有する人権を脅かしている。例えば英国のハリー王子のパパラッチの事件も

プライバシーが侵害された一例である。したがって、戦時中には誰も犠牲にせざるを得なかった「個人の尊厳を守る」という新しい考えが戦後国民の間に広く浸透したことにより、人々が幸福追求のための権利を以前に増して強く求め始め、人権の保護を重要視するようになった。

積極的平和の考えに基づく「平和」が重視されるべき理由は他にも、いじめ、自殺、児童虐待等の社会問題が深刻化している閉塞的な現代社会に生きる私たちにとって、真に必要なことは政治、社会、経済的に安定した生活の営みのほかにも、心の癒しや精神的ケア等が挙げられ、消極的平和によっては成し得ない「平和」を人々が必要としているからである。したがって、現代社会で人々が求めている「平和」は消極的平和が創り出す単に国家間の戦争がない状態を意味する「平和」ではなく、積極的平和の考えに基づく戦争のない世の中を人々が享受することのできる「平和」を意味するべきである。

ただ、私たちの身の回りの「平和」の定義は積極的な平和で十分かもしれないが、世界に目を向けてみると、消極的平和が重要視されるべき場合も多く存在する。たとえば、米兵が撤退したことをうけて市街戦が激化し、タリバンの進攻が続く現在のアフガニスタンもその一例である。複雑化する「平和」な世界を築くために、私たち一人一人がどのような取り組みをしていくべきか、是非議論していきたい。

以上